

ほしにねがいを

平成 30 年 7 月 24 日(火)から 8 月 26 日(日)



仙台七夕 七つ飾りに込めた願い

- ①短冊 (たんざく)・・・学問や書道の上達
早朝、硯にカラトリの葉にたまった夜露を硯に集めて墨をすり、詩歌を書いて、学問や書の上達を願いました。
- ②紙衣 (かみごろも)・・・病気や災難の厄除け、裁縫の上達
病や災いの身代わりに捧げたという衣。昔は、母や師匠に教えられ、裁縫の腕が上がるようお願いしながら縫われました。
- ③折鶴 (おりづる)・・・家内安全と健康長寿
家の長老の年の数だけ折り、延命長寿を願いました。折り方を習う娘たちは、折り紙を通じ、教わる心、人に教える心を学びました。
- ④巾着 (きんちゃく)・・・商売繁盛
富貴を願いながら、節約、貯蓄の心を養いました。しっかりとひもで結ばれ、無駄遣いを戒めています。
- ⑤投網 (とあみ)・・・豊漁・豊作
幸運を寄せ集めるという意味も。仙台近海の豊漁を祈願しました。
- ⑥屏箒 (くずかご)・・・清潔と俊約
七つの飾り物をつくり終えた箒くず、箒くずを拾い集めて箒かごの中に入れました。ものを粗末にしないで、清潔と俊約の心を育てました。
- ⑦吹き流し (ふきながし)・・・織姫の織糸
織姫の織り糸を象徴し、昔の織糸をたらしした形を表しています。機織りや技芸の上達の願いを込めました。

※引用：仙台七夕まつり協議会ホームページ「仙台七夕を知る」より



8月26日